

A portrait of a woman with short dark hair, smiling, wearing a white button-down shirt. The background is a plain, light-colored wall.

宮下ゆみこ 政策集

討論資料

Profile

- 昭和42年3月24日生 49歳(ひつじ年、おひつじ座、O型)
- 栃木県鹿沼市出身
- 宇都宮大学 農学部 卒
- 三菱油化(株)勤務を経て、平成6年月形町に新規就農。
- 月形町議会議員(3期:平成19年5月～平成28年7月)

Homepage

<http://www.yumiko3.net/>

Address

〒061-0503

宮下ゆみこ後援会事務所

電話(FAX兼用) 0126-53-2303

月形町豊ヶ丘1(札比内ドライブイン内)



miyashita yumiko

子ども・若者政策

子ども時代に五感を使った十分な「遊び」をすることで、その後の教育効果が上がることが証明されています。月形は自然豊かで五感を磨くには絶好の環境が整っている上、人を育てる地域力があり、少人数できめ細かく見守れます。

子どもや若者は未来への希望であり、活力のシンボル。その子ども達が月形の地ですくすくと成長して生きぬく力が身につくように、若者達が自立をめざして一回り大きく成長するように、全力で支援していきます。

子どもや若者にとっての「あしたの種」は … 教育、遊び環境、自然のチカラ、充実した体験活動

政策 1 子ども達の生き抜く力を育てます。

どうやって? 子ども園・学童保育・小・中・(高)の一貫した教育方針を作り、体験活動を充実させます。

子ども世代を通して一貫する「教育関係全体を統括したプログラム」を作り、実践します。特に重要視するのは体験活動。月形はまるで箱庭のように小さな町に社会の様々な施設や産業が存在しています。子ども達がその多様性を体験することで、生きぬく力と郷土への誇りを育てます。

政策 2 子ども達に豊かな自然体験を。

どうやって? スキー場跡地と円山を活用した「森の遊び場」を提供します。

円山スキー場(ロープ棟周辺)跡地、休止中の円山運動公園、円山の散策路や展望台を、一体的に「森の遊び場」として再構築します。

森は、様々な生き物や植物を育み、季節の変化を真っ先に感じる、自然と暮らしの境界線。五感が鍛えられる、豊かな自然体験を積む絶好の場です。「森の遊び場」で、プレーパークやアウトドア教育、各種イベントを展開します。

政策 3 学びたい気持ちを応援します。

どうやって? 全町民対象の無利子奨学金を創設します。

全町民を対象に、進学や海外留学等に活用できる無利子の奨学金を創設します。月2万円を最大4年間無利子で貸し出し、返済は10年間(月8千円)。

一般的な奨学金は有利子のうえ、浪人生や社会人が借りるにはハードルが高い状況です。いつでも学びたい時に行動に移せるよう、町が支援します。

高齢者や障がい者のみなさんにとって、日々の暮らしの必要最低限が揃っていることが、月形町で暮らし続けられること条件。これから更に進む高齢化社会を見据え、不足を補い、潤いのある暮らしができるように支援します。

高齢者・障がい者にとっての「あしたの種」は … 暮らしの安心、コミュニケーションの充実

政策 7 暮らしにもっと安心を。

どうやって? 在宅医療・在宅介護を充実させます。(町立病院を含めた、組織と機能の再構築)

高齢者施設の入所基準が要介護3に引き上げられ、在宅介護や在宅看護が必要な人が増えています。また、高齢者のみの世帯(夫婦・独居)、障がい者の高齢化も進んでいます。時代を先読みした行動が今、必要です。

不足する在宅ケアの人員と機能を確保するため、町立病院を含めた町内の保健・医療・福祉の体制・組織を再構築します。また、町内遊休施設や空き家を活用し「サービス付き高齢者住宅」を提供します。

政策 8 暮らしに安定と潤いを。

どうやって? 日常生活の不便を改善し、楽しみを増やします。

(地域交通の再構築、買い物支援、災害時支援、町の話題を提供するIP放送)

特に要望の多い「移動の足」確保では、ぬくもり福祉券のタクシー利用を、これまでの回数券方式からパスポート方式に変更します。町内タクシー利用は基礎運賃を払えばどこへでも行けるようにして、市街地と遠隔地の格差をなくします。

また、政策6で創設するIP放送局では、町内行事の様子や旬の話題を取り入れた番組や注意情報など、潤いと安心な暮らしの助けになる放送を展開します。

この他、ニーズに合わせた日常生活確保策や災害時支援の準備を進めます。

暮らしを支える世代政策

暮らしを支える世代の生活が安定しなければ、地域の暮らしは成り立ちません。暮らしを支える世代が未来に希望を見いだせなければ、地域に活力が生まれません。「生活基盤の確立」と「新しい挑戦への投資」を軸に、人の力を活かす施策を展開します。

暮らしを支える世代にとっての「あしたの種」は … 新たな可能性への挑戦

政策 4 町内事業者と従業員の暮らしを守ります。

どうやって? 「地域振興・中小零細事業者振興条例」「公契約条例」を制定します。

町が様々な契約をするとき、「地域振興・中小零細事業者振興条例」によって町内事業者を守り、「公契約条例」によって従業員の賃金や労働条件を守ることができます。この2つの条例で、町内で働く人々にお金が回る仕組みと、不正や不公平を起こさない仕組みができます。

政策 5 町民のチャレンジを応援します。

どうやって? 農業者・商工業者・市民活動の「新しい取り組み・挑戦」に投資します。名付けて「月の種 チャレンジプロジェクト」

地域が活気づくには、常に新たな取り組みや挑戦が必要です。今までも商工分野向けの起業家支援事業はありますが活用されていません。起業する前段階の調査研究を支援する必要があります。同様に、農業分野なら新しい作物や栽培方法など、市民活動ならお試し企画や挑戦の取り組みなど、次世代につながる多種多様な種まきが必要です。新しい発想の種を持った「人」を支援します。

政策 6 人手不足解消に取り組みます。

どうやって? IP電話を使った民間放送局を立ち上げ、求人情報を提供します。

月形町の基幹産業・農業では人手不足が深刻です。対策には様々な手段がある中で、町としては、町内で求人情報の提供ができるように支援します。

具体的には、NPO法人を立ち上げ、IP告知端末を使った放送の管理・運営を任せます。民間放送局として様々な番組を展開でき、その1つに求人情報も提供します。

政策9 刑務所をあらたな資源に。

どうやって? 「刑務所は究極のコンパクトシティ」発想で、資源化の可能性を探求します。

月形刑務所は約1,000人の受刑者が24時間、移動することなく生活する究極のコンパクトシティです。消費・排出される様々なエネルギー、受刑者の労働力、社会復帰計画などは、民間企業の社会貢献活動の投資対象となるため、新たな視点で見直すことによって資源化が可能になります。

これまで、刑務所を「受刑者の人口加算による交付税増額」としか評価してきませんでしたが、発想と視点を広げた新たな展開を模索していきます。

政策10 町民と町との信頼関係を築きます。

どうやって? 町民の視点での公平・公正な判断と、役場全体の資質向上に努めます。

町政の目的は「町民福祉の増進(=町民の幸福感を増すこと)」であり、町と町民との信頼関係が大きな推進力になります。

信頼関係を築くには、決定の過程や議論の中身を「公開する」と、「町民が参加する」仕組みが必要です。組織の論理ではなく、町民の視点での公平・公正な判断が重要になります。

さらに、町民のみなさんから寄せられた「声」を、具体的な政策に「変換」していくことも求められます。これには、役場全体の研鑽と資質向上が欠かせません。

これらを実現するためには、組織外とつながって、情報や知識、知恵に触れて吸収することが近道です。幸い私には9年間の議員活動で培った人脈があります。これらを最大限活用します。



「あした が 楽しみになる!」まちづくり

「あした が 楽しみになる!」まちづくりの第一歩は、町民一人一人が楽しみや希望を見つけ、それぞれに輝いて主人公になること。いきいきと目を輝かせた町民が暮らす「まち」には自然に活気が生まれ、人が集い、交流の輪が広がって… そんな月形町の未来の姿を想像しています。

宮下ゆみこは「あした が 楽しみになる!」まちづくりのために、10の政策を進めます。これらは今ある課題の解決と、楽しみを生み出す種になります。

変化の激しい社会です。地方には厳しい時代です。それでも大好きな月形で暮らし続けるために、動き始めるなら、今! 今がチャンスです。

宮下ゆみこは用意万全、すぐに行動を起こせます。

さあ、みなさんご一緒に!!

月形町民のみなさまへ

宮下ゆみこさんが月形町に移住してから23年が経ちました。宮下ゆみこさんは、既に「よそ者」ではなく、名実ともに「誰よりも月形町を愛する」筋金入りの月形町民です。

宮下ゆみこさんの活躍は、町民のみなさんもお存じの通り。平成19年には月形町初の女性議員になり、1期目から「町民目線で!」「是々非々の立場で!」「年4回の一般質問は欠かさない!」をモットーに、持ち前のアイデアと行動力、そして情熱で、まちづくりや教育課題などに積極的に取り組み、町民の代弁者として常に議会をリードして来ました。

特に、町民の大切な税金の使い方については、「町民の付託に応えることが私の使命」という強い信念と丹念な調査で、真相究明と解決策を模索し続け、ひとつの成果を導きだしました。

また、議員になる前にも、花の里保育園や学童保育の開設に関わるなど、働く女性の立場で積極的に行政に働きかけ、その実現に貢献した実績もあります。

今回、宮下ゆみこさんは、停滞感漂う町の現状を打破し、希望の扉を開けるために、勇気を持って立ち上がりました。女性が手をあげることがどれだけ覚悟がいることか。どれだけ勇気がいることか。私はこの覚悟と実績と若さに感銘を受け、直ぐに後援会長を引き受けました。よくぞ決心してくれたと本当に感激しています。

今年は5月に台湾で女性総統が、7月にはイギリスで女性首相が誕生し、アメリカでは女性初の大統領が誕生する可能性があります。そして、東京都では小池百合子氏が初の女性都知事になりました。時代の潮流は世界も日本も女性のトップリーダーを求めているのは確かです。

月形町の未来を確かなものにするために、「あしたが楽しみになる!」まちづくりに向けて頑張ってもらうためにも、是非、「宮下ゆみこ後援会」に特段なるご支援をお願い申し上げます。

平成28年9月吉日

宮下ゆみこ後援会 会長 笹木 英二

Miyashita Yumiko Profile

- 昭和42年3月24日生 49歳(ひつじ年、おひつじ座、O型)
- 栃木県鹿沼市出身
- 宇都宮大学 農学部 卒
- 三菱油化(株)勤務を経て、平成6年月形町に新規就農。
- 月形町議会議員(3期:平成19年5月~平成28年7月)



家族

夫

娘 東京都在住:職人

息子 京都府在住:職人の卵

趣味

手芸、料理(我が家は食卓で世界旅行)、スポーツ、家族登山

特徴

好奇心旺盛、責任感が強い

特技

弓道二段、運転免許(普通自動車・自動二輪中型)

座右の銘

大胆にして細心

好きな映画

ワーキングガール(努力が報われる女性版成功物語)

好きな食べ物・嫌いな食べ物

なし(何でも挑戦!)

お酒

ビールコップ1杯で定量、2杯でタコ、3杯でマグロ

身長

158cm

体重

見た目と同じくらい重い

宮下ゆみこ物語



誕生 ～ 小中高校生

田舎育ちの元気な少女

栃木県の専業農家に生まれ、11人の大家族で育つ。弟2人。小柄で真っ赤なほっぺた、青っ鼻を垂らして遊び回る、絵に描いたような田舎の子。

小学校時代は同級生12人全員が偶然女子で、男女の役割を意識せず、何事にも積極的に取り組む子どもに育った。運動は苦手だったが、中学でバレーボール部に入りスポーツ好きになる。

高校は自宅から1時間半の県立栃木女子高に入学。思い出はハンドボール一色。高校選抜とインターハイに出場し全国3位、キャプテンを務めた。



大学生

自立した大人へ

宇都宮大学農学部農芸化学科に入学。除草剤を研究。化学と農業の繋がりを学ぶ。弓道部に入部し二段を取得。日本武道館で弓を引く経験も。精神の持ち方が行動を左右することを学んだ。

待望の一人暮らしは貧乏と背中合わせ。下宿先が火事になり、一人暮らしの大変さを肌で感じた。中型バイクでの四国一周など、自立した大人になるための経験を積んだ。

会社員(22歳～26歳)

除草剤の研究

三菱油化株式会社。新しい除草剤の研究開発を担当。水田ヒエ剤オキサジクロメホン(MY-100)の発明に立ち会う。女性研究員の地位向上活動は痛い思い出。社会の仕組みを学ぶのに絶好の4年間だった。

プライベートでは、大学時代からの付き合いの夫(東京都出身)と23歳で結婚。会社に勤めながらも「一生仕事を続けたい」「家庭と仕事を両立したい」と考えるように。夫も自営を考えていて、「それなら農業がいい」と意気投合。準備が整い、妊娠8ヶ月で退社した。

会社員(25歳ごろ)

月形町との出会い

退社の1年前、新規就農を考え始めた。関東近郊での稲作は農地が高くて手が届かず、「北海道なら4分の1」と紹介された先の一つが月形町だった。小規模で投資が少なく、工夫次第で自立できる「切り花農家」に魅力を感じ、月形で就農することを決心。

最初の訪問から1年半の間に町は制度を整えてくれ、受け入れ体制はバッチリ。平成6年4月に月形町麻生の実習農場に移り住む。2年間研修を積んだのち、農事会に農地1.5haを買って就農した。

新規就農(27歳～)

人とのつながりのありがたみ

就農してすぐは、仕事も環境も子育ても初めてで戸惑うことばかり。軌道に乗り出した頃には台風や大雪の被害。借金から始まる新規就農には様々な試練がつきまとうが、それを乗り越えようと考え、行動することが楽しく、充実を感じた。また、花き生産組合やママさんバレーの仲間をはじめ、多くの町民のみなさんが助けてくれた。人とのつながりがこんなにも有り難いと感じたのは、月形に移住してから。農家になってよかった、月形に来てよかったと、心から感謝している。





母親(30歳ごろ)

【まちづくり】への感心 【認可保育所・学童保育の開設運動】

認可保育所・学童保育所の開設運動が「まちづくり活動」のきっかけ。母親有志の働きかけで、季節保育所建て替え計画を転換できた経験は大きかった。

それまで「まちづくり」は、役場の誰かが決めるものだと思っていたが、身近な問題を自分達の視点で提案すれば「まちづくり」に参加できるとわかった。

町民(40歳ごろ)

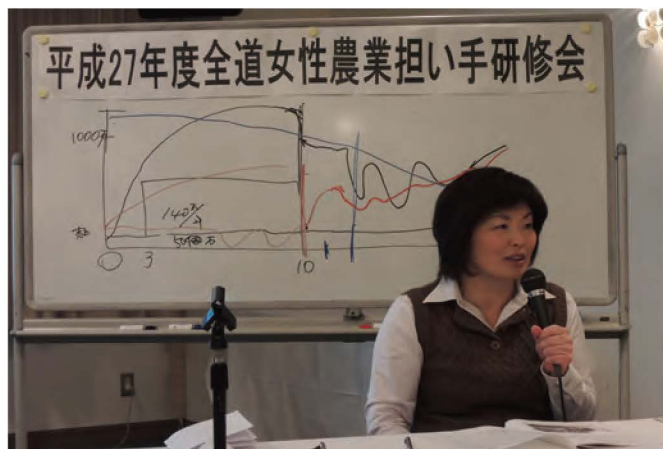
身近なことから町全体へ 【合併問題 → 議員立候補】

平成15年～16年の月形町合併問題。仲間とともに、合併の勉強会を開催するなど、「自分の町のことを自分で考える」という「自治」に目覚め、多くの町民を巻き込んだ市民活動を展開した。この問題を機に、町の中で自分にできることはないかと模索するようになった。

住民投票や議会傍聴、広報紙の作成などを行うなか、自治や政治の勉強のため、土曜講座や北海道自治体学会にも通い出した。

平成19年4月の町議会議員選挙に立候補し、月形町議会で、初めてで唯一の女性議員となった。





町議会議員(40歳～49歳)

町民の視点で

議員になったのは「町民の声を議会に届け、町政に活かしていく」「暮らしやすい月形にする」ため。だからこそ、町民の声を毎回欠かさず議会で問い(一般質問)、町民の視点で「良いものは賛成、ダメなものは反対」という是々非々の議論をし、それを活動報告書やブログで公開してきた。町民のみなさんの声私を支えてくれた。

議員活動を深めるため、道内、全国に学びの場を求め続け、志を同じくする仲間や、豊かな知見を持った人や組織とつながることができた。9年間で築いた人脈はとても強固で、一声かければ全国・全道各地から知識と知恵が寄せられる。今の私にとって大きな財産になっている。

情報化が進む今、月形町は次のステージに飛躍するチャンスなのだ。





これから

あしが楽しみになる!まちづくり

これまで、議会から「まちづくり」を進めたいと活動してきた。

これからは、さらに私の想いや考えを直接町民のみなさんに投げかけ、町民のみなさんとともに「まちづくり」をしていきたい。

今、私が月形町に感じているのは停滞感。10年先の明るさや夢が想像しづらい。安定した変化のない日常は居心地がいいが、社会が目まぐるしく変わる中で、取り残されてしまうのではないかと…。何とかしたい!

「あしが楽しみになる!まち」には、生き活きと目を輝かせた町民がたくさん暮らし、ひとりひとりの挑戦が変化を生み出して「まち」が活気づいている。みんながワクワクと月形の明日を語り合う。

そのためにありとあらゆる意見に耳を傾け、知恵を取り入れ、「あしが楽しみになる!まちづくり」を、町民とともに歩んでいきたいと思っている。